

フィールド
レポーターだより!!



2014 年度 第2 回調査

「みんなも着ている!? 和服大調査」結果報告

いま米国の大学院で民俗学を専攻している知人に、現代日本人と kimono というテーマを扱っている研究者がいます。現代日本の家族生活のなかで、和服をめぐる複雑な決まりごとはどのように受け継がれているか、またそこにはどのような美意識が新しく芽生えているか、といったことが主な研究課題だそうです。

このような話題は、どこか奇妙に響くかもしれません。現代を生活している私たちの暮らしのなかで、和服をめぐる新しい展開のようなものがほんとうにあるのでしょうか。じつは、私自身、この「和服調査」に立ちあうまでは、和服というものはどこか世間ばなれした、なにやら特別な伝統文化のように見ていたところがありました。

とはいえ、このような見方は、和服というものをあまりに固定的に捉えすぎているようです。あらためて自分の身のまわりことを振り返ってみても、たとえば子どもころ七五三で着せられた着物、体育の授業で着た柔道の道着や、旅先には付きものの旅館の浴衣、これらは紛れもなく和服です。親族の遺体に死装束を着せたこともありました。

このように緩やかな捉え方をしてみると、和服というものは、ただ衰退しているのか、それとも多様化しているのか、簡単には決められないように思えてきます。そしてまた変化しつつある和服の“現在”のことは、あと 10 年 20 年もたてば調べる手立てはなくなる、つまり永遠に分からなくなってしまうものです。

今回の「みんなも着ている!? 和服大調査」は、このように変転し続ける、それだけに捉えどころのない現代の和服のありかたに迫ろうとした調査の結果をお伝えするものです。これは従来の服飾史や民俗学の成果と違って、いまを生活している普通の人たちにとっての和服を調べた点にも特徴があります。

調査の成果は本編をお読みいただくとして、ひとつ印象に残ったのは自由記述欄のすばらしさです。和服というものが、たんに着るだけのものではなく、ともに眺め、語り、評価しあうといったコミュニケーションのなかにあることに気づかされます。フィールドレポーターの皆さんとの検討会も、いつも“私の和服体験”を語り合う、にぎやかで充実した座談会のような雰囲気であったことも、ここに書きとめておきたいと思います。

渡部圭一

昨年末から本年初めにかけて実施致しました『和服大調査』では、レポーターの皆さんに調査票をお送りして、参加をお願いするとともに、博物館アトリウムに調査票を設置して、来館者の参加をお願いした結果、15都道府県在住の232人の皆さんから、回答を頂きました。(Fig 1,2)

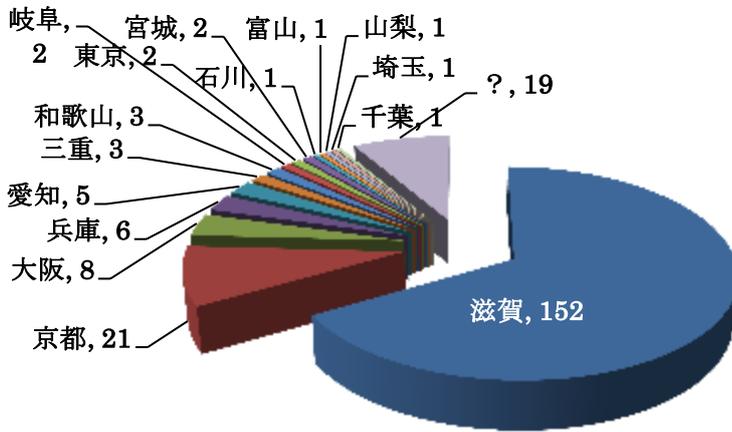


Fig.1 都道府県別回答者数

今回の調査は“きもの”に関することから、女性の関心がより高いのか、回答を頂いた方も、女性159人に対して、男性は58人と女性の3分の1程度と少ない数となりました(Fig 3)。

さらに、回答頂いた人々の年齢構成についても、Fig 3に見られるごとく、それぞれの母集団の数に大きな差が見られ、統計学的に正確に比較することが可能かどうか疑問である。

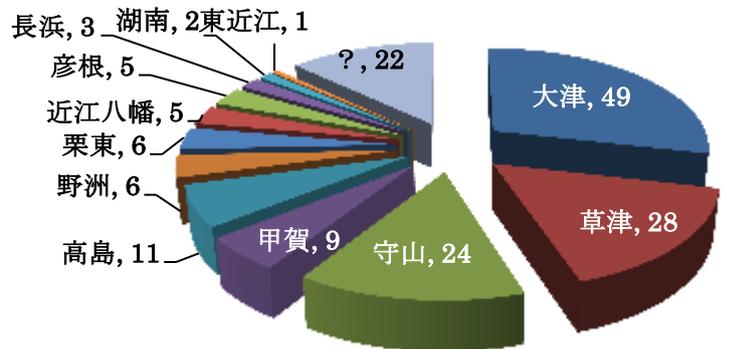


Fig.2 滋賀県内回答者数

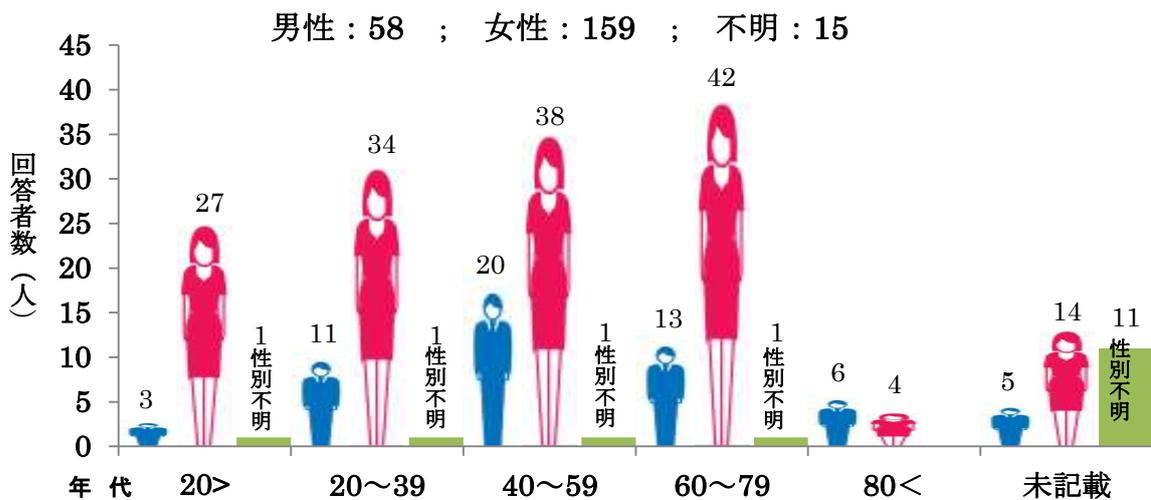


Fig.3 年齢別/性別 回答者数

以下、アンケート票に記載した質問事項の順に従って、回答頂いた結果をグラフ化表示する。
 なお、表示した円グラフはそれぞれの項目についてのすべての回答(男性+女性)を百分率表示し、棒グラフは男女別あるいは年齢別集計結果を同じく百分率で表示した。

1. あなたは、この1年くらいの間で、和服姿の人を見かけたことがありますか？

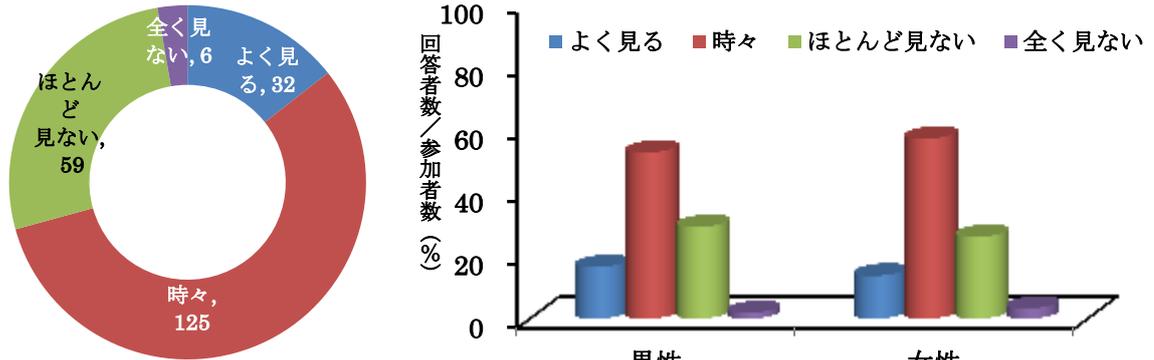


Fig.4

男女間で回答者数に約3倍の開きがあるが、あらかじめ設定した小項目(よく見る、時々見る、ほとんど見ない、全く見ない)間にはほとんど男女間の差は認められなかった。

2. あなたの和服着用の経験についてお聞きします。

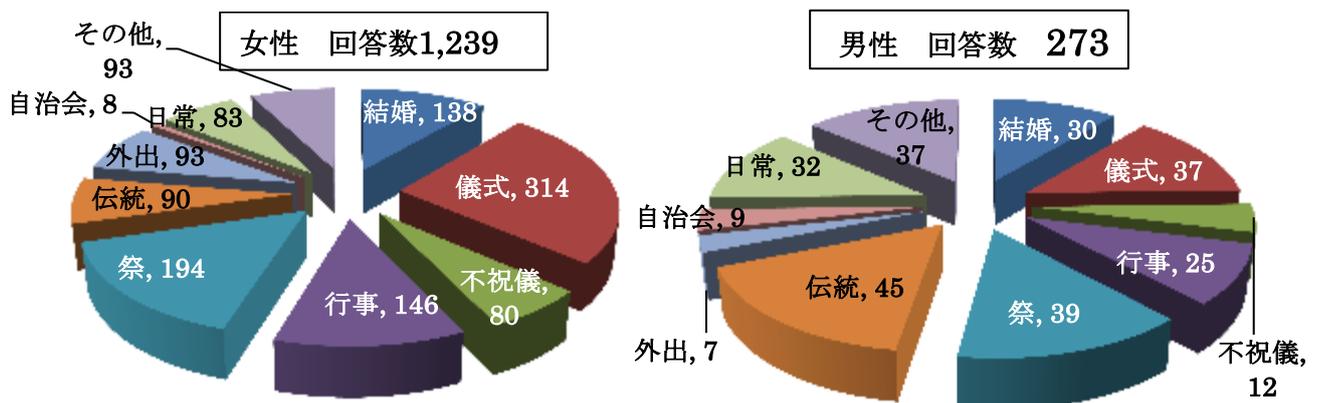


Fig.5

和服着用の経験に関しては、設定した10種の大項目(結婚~その他)について、男女間で違いが見られ、女性は男性に比し儀式、不祝儀の際、和服を着る事が多く、男性では伝統に関わる機会に和服を着る機会が多い結果となった。

以下、それぞれの大項目について、小項目別に全回答数(円グラフ)と年齢別回答者数(棒グラフ)を百分率(%)表示した。

2-1: 結 婚

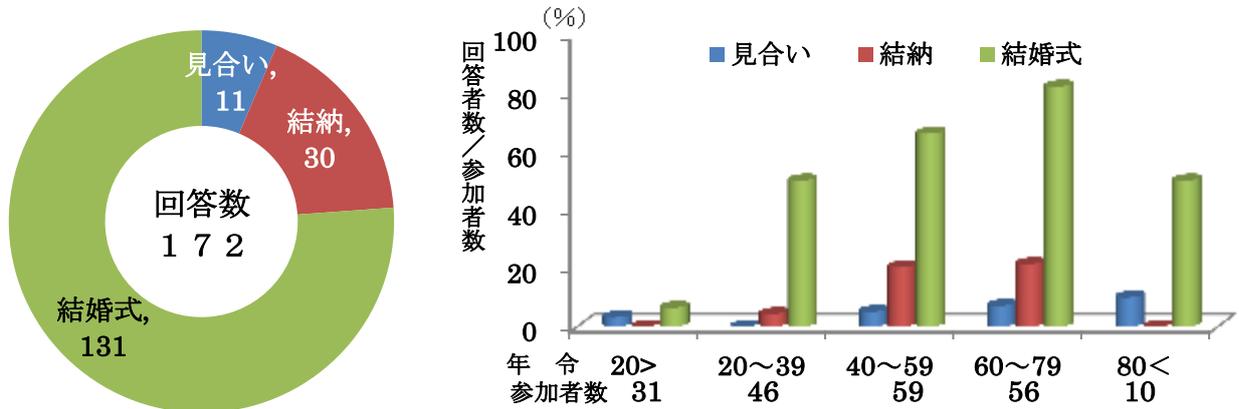
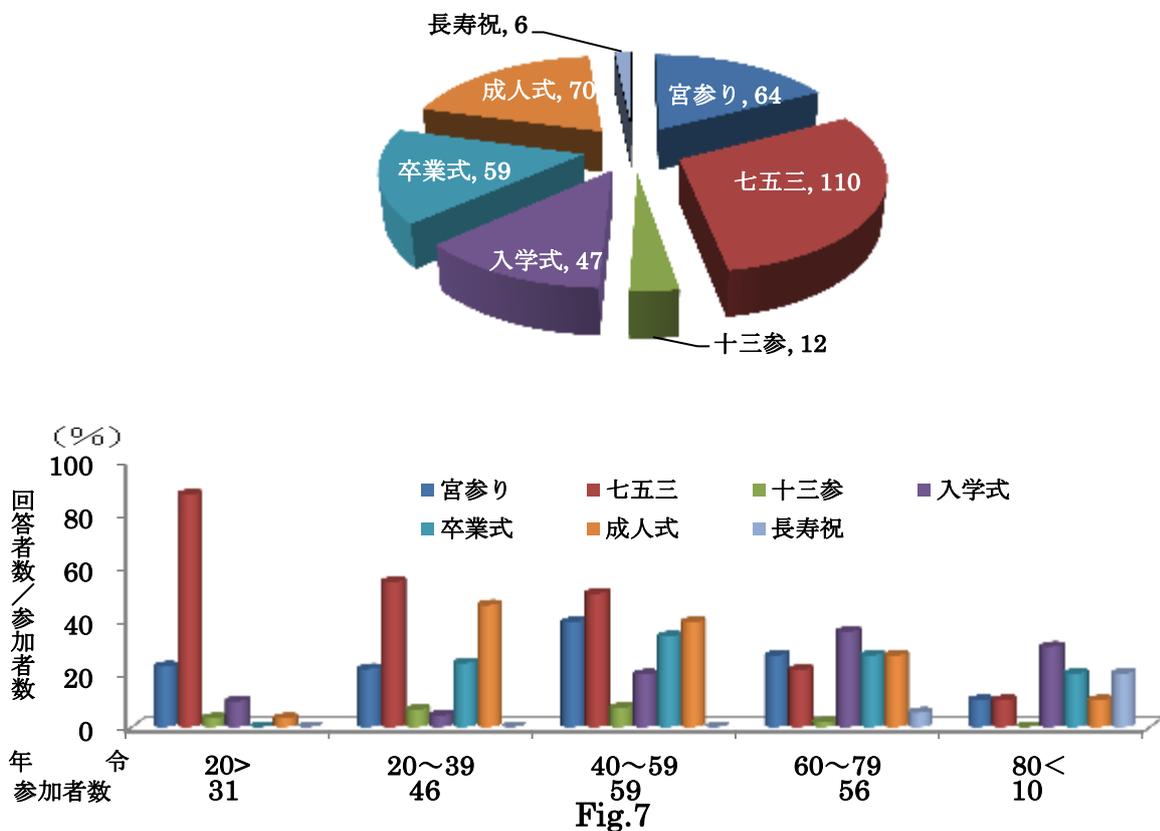


Fig.6

結婚式での和服着用の経験者は高齢になるほど多くなる。ただし、20～30歳代の若い世代でも約半数の人に着用経験があり、結婚式に和服を着る習慣は、現代でも依然として守られていると言えよう。

2-2: 儀 式



7つの小項目のなかで、和服が最もよく着られたのは「七五三」で、「十三参り」と「長寿祝」での着用は少なかった。年代別では、「七五三」と「成人式」は若い世代ほど着用率が高く、結婚式や不祝儀における世代間の傾向とは明確な違いがみられる。とくに「七五三」は、20歳未満の大多数に着用経験があるのに対し、年齢が高まるにつれてその割合は減少し、60歳代以降では極端に少なくなった。高齢世代の七五三の時期は戦中戦後の混乱時期にあたり、行事への参加もままならない社会情勢であったのかもしれない。

2-3: 不祝儀

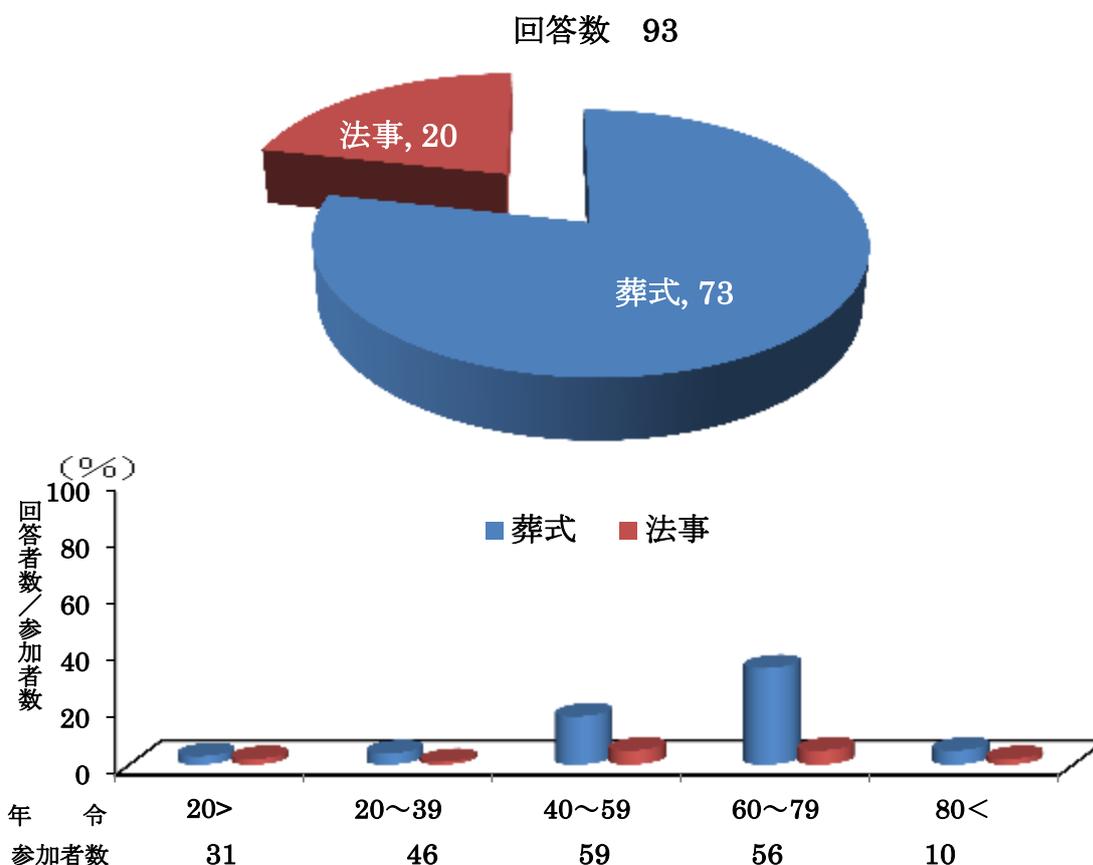


Fig.8

葬式や法事での着用経験者は76人(全回答者の33%)であったが、年齢別では39歳以下の世代で着用が少なかった。すでに述べたように、七五三や結婚式では低年齢の人々の着用率が高齢世代に劣らない、あるいはそれを上回る傾向を示していたことを考えあわせると、現代の若い世代の和服経験は不祝儀よりもハレの機会に重心を移しているといえそうである。

2-4:行 事

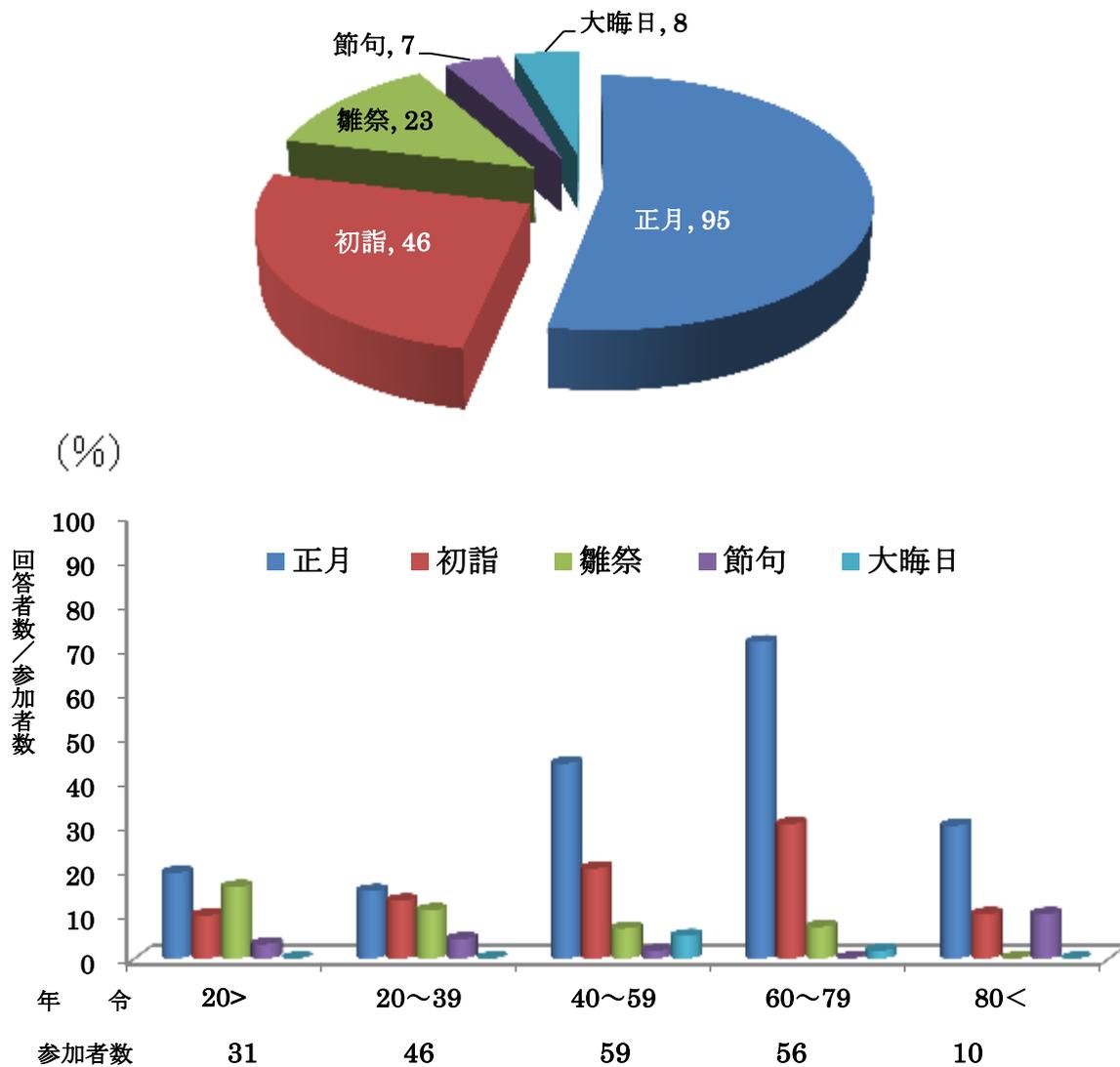


Fig.9

5つの小項目を比べてみると、世代ごとの差の表れ方がすこしずつ違っている。たとえば正月に和服を着る人は、年齢が高まるにつれて割合が大きいが、初詣に和服を着る人は、あまり世代間の違いがみられない。微差ではあるが、雛祭りのように若い世代のほうが着用率が高いものもある。一年のなかで和服を着る機会は、時代ごとに複雑に移り変わってきたのではないか？

2-5: お祭り等

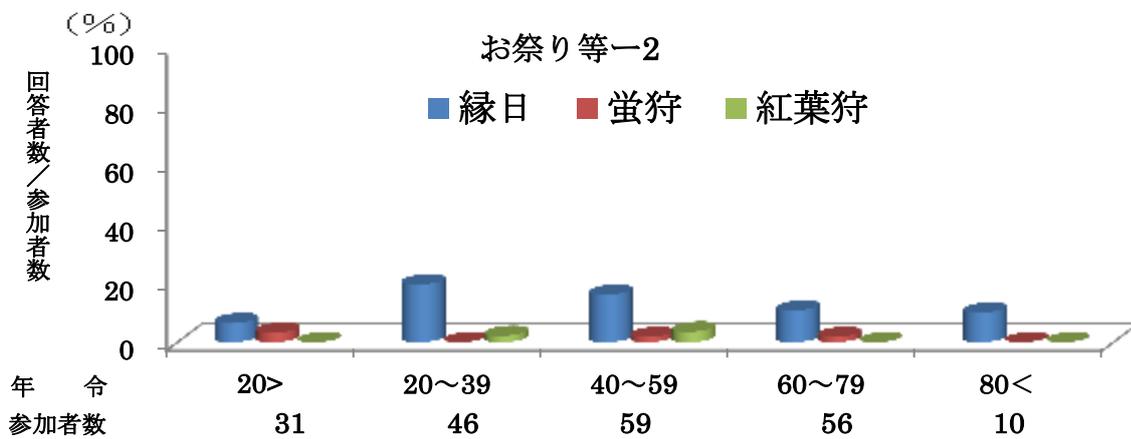
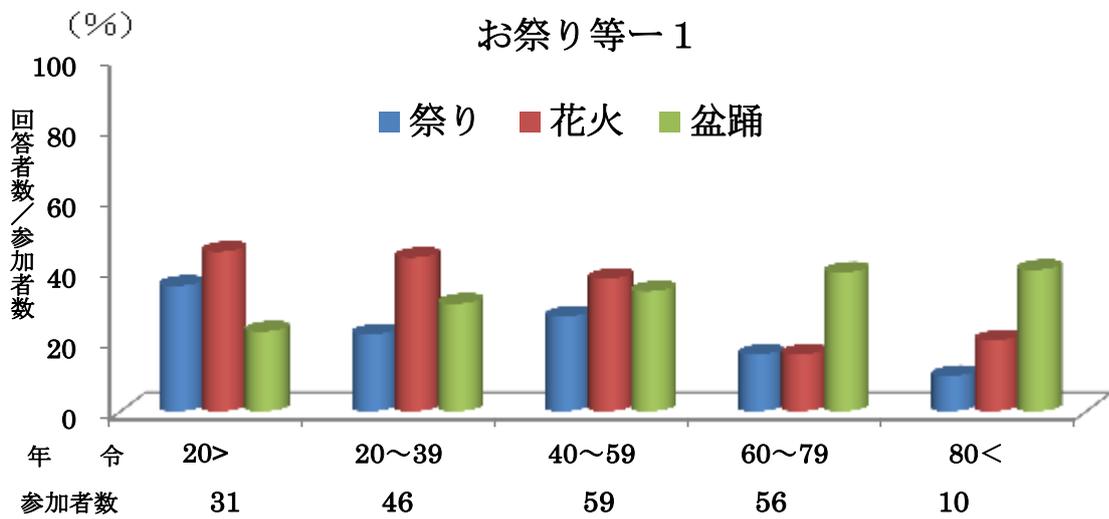
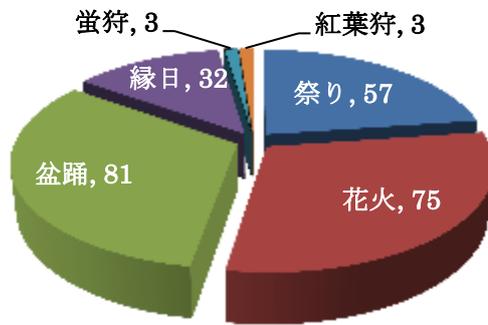


Fig.10

年齢別でみると、「祭り見物」と「花火」は若い世代、「盆踊り」は高齢の世代の和服着用が多いという微妙な違いがみられた。かつては盆踊りが集落ごとに開催されたのに対して、近年は大規模な祭りや花火大会がより多くの観客を集めていることと関連しているようである。とくに「花火」での若い世代の着用率は50%前後に達しており、新しいタイプのイベントが和服を着る経験と結びついている様子がわかる。

2-6: 伝 統

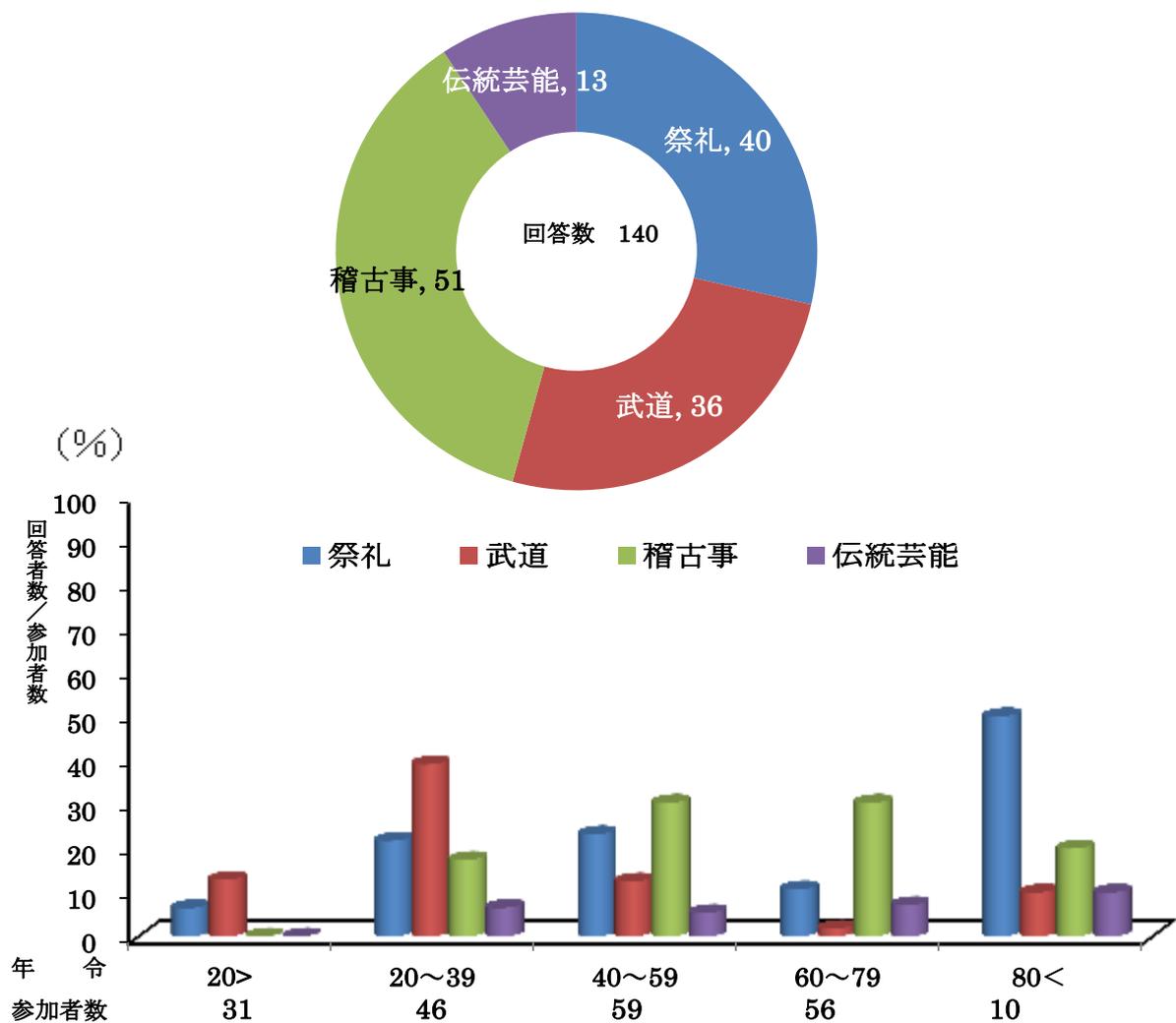


Fig.11

すでに述べたように、和服の着用率には男女差があり、男性は女性に比べて伝統に関わる場面で和服を着る機会が多い(Fig.5 参照)。もうすこし詳しく紹介すると、男性では「地域祭礼への参加」や「武道の練習」での着用が大半を占めるのに対し、女性は「お稽古事」を中心にしている。武道に関しては、年齢層ごとの差もあり、おおむね若い世代に偏っている。学校体育のカリキュラムの変遷などに関連しているのかもしれない。

2-7:外出

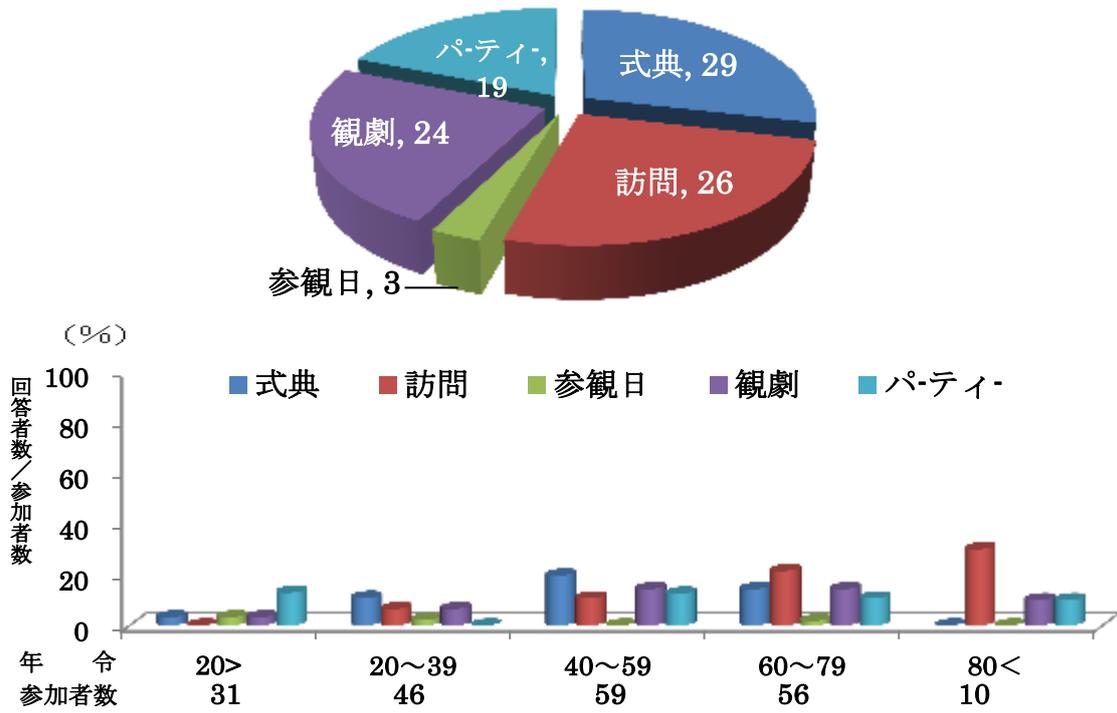


Fig.12

2-8:自治会等

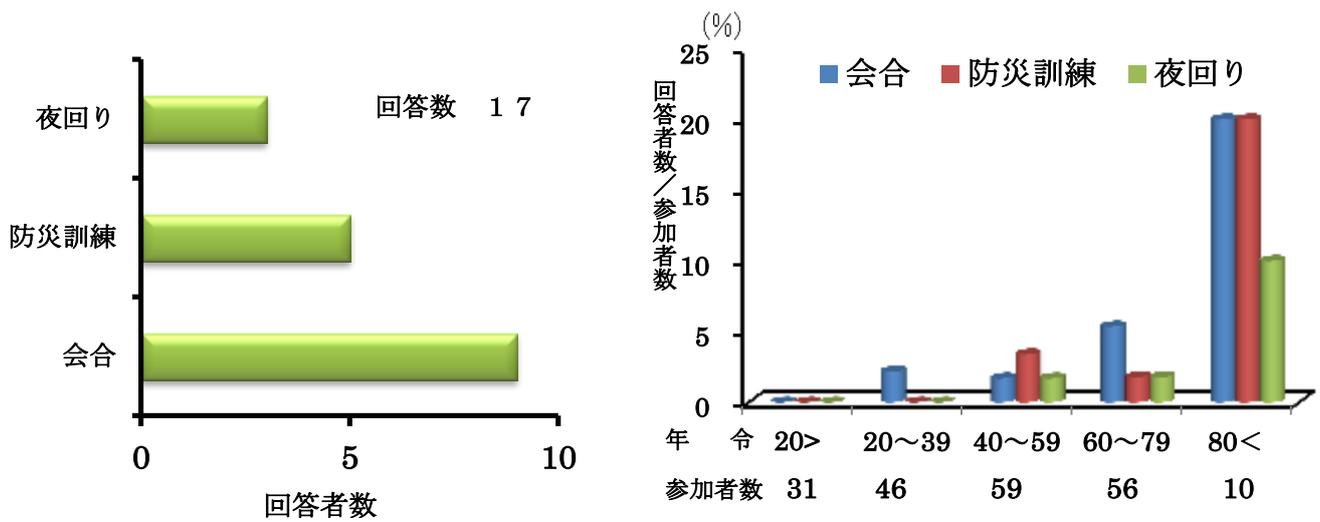


Fig.13

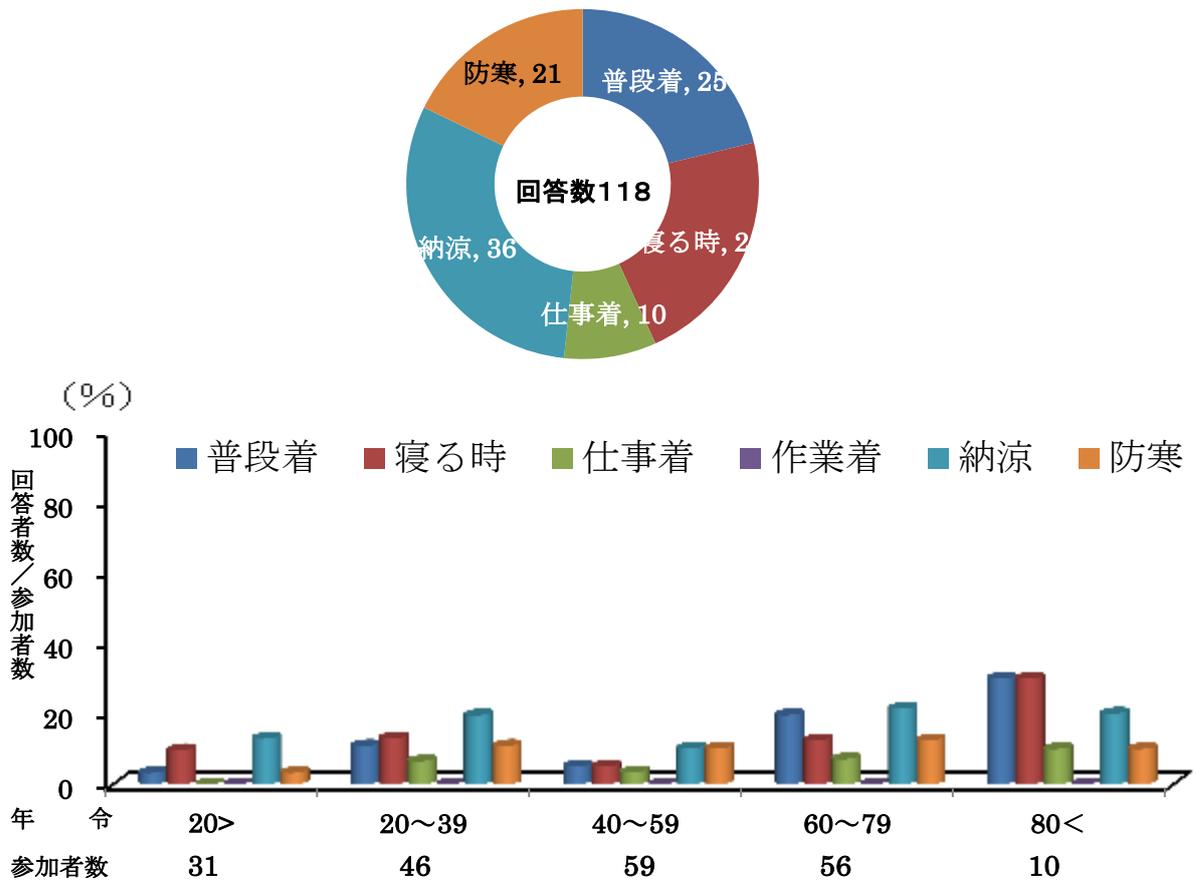


Fig.14

3. あなたは今も年1回以上和服を着ますか？ または 将来に和服を切り機会がありますか？

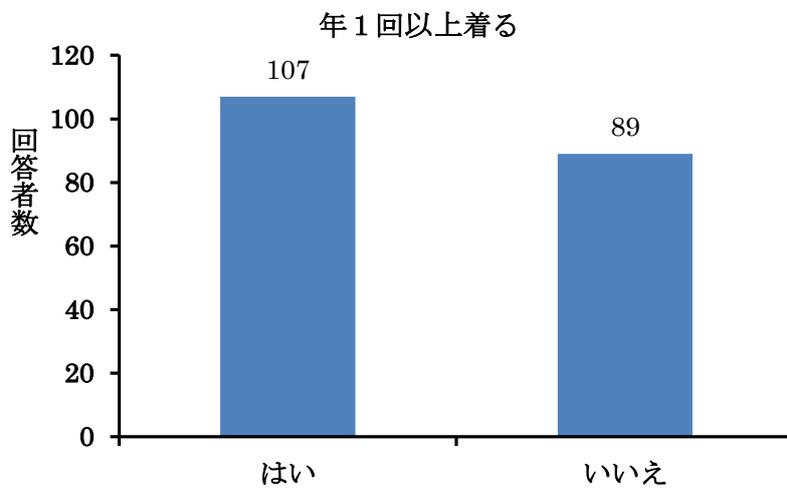


Fig.15

3-(1). どのような時どのような和服を着ますか？

20歳以下

どのような時	どんな和服を
夏、お祭り、旅行、冬	甚平、浴衣・甚平、浴衣、半纏
おまつり、入学式、花火大会、おでかけ	イ～ハ ゆかた、ちゃんちゃんこ
お祭り、七五三、花火大会、ねるとき	ゆかた
ようねんしょうぼうクラブ、せいじんしき	はっぴ、ふりそで
夏祭り、七五三、初詣	
幼年消防クラブ、成人式	はっぴ、ふりそで
宿で	浴衣
おまつり	ゆかた
祭り、七五三	
初詣	きもの
夏祭り、七五三、花火大会、盆踊り	浴衣
七五三、ひなまつり、花火大会	
七五三、夏まつり	きもの、ゆかた
たなばたまつり	ゆかた
お祭り	きもの
宿に宿泊した時	浴衣や丹前
宿に宿泊した時、夏の納涼	浴衣や丹前、浴衣
祭	袴

20～39歳

夏・旅行	甚平・浴衣
夏・旅行・旅行	甚平・半纏・浴衣
身内の結婚式(着る予定)	黒留袖や色留袖
夏祭り、秋祭り	浴衣、チームで揃いのハッピー
夏の夜	じんべい
花火・友達の結婚式	ゆかた・着物
結婚式・同窓会	訪問着・訪問着
親族の結婚式	
親族、友人の結婚式	訪問着
仕事	ウール、木綿、ポリ、紬、麻等の着物で職員室になじむ地味な着物。

ランチなど、レストランに行く時・参観、こんだん * 正月など	小紋、つむぎ・無地など
祭り・子供の行事・お祝いごと	ゆかた・七五三その他。レンタルも。
大垣の祭	浴衣
お正月・温泉旅館	留袖・浴衣
呉服屋の展示会、夏祭り	あわせ、ゆかた
成人式、結婚式、花火祭、観光地観光	ふりそで、ゆかた、着物
友人の結婚式	ふりそで
寝るとき	甚平
宿での浴衣	浴衣
ホテル	宿の浴衣
お茶会(習い事) 季節のおでかけ(夏 ゆかた花火 秋 も みじがり)	つけさげ、無地 ゆかた、小紋
宿の浴衣	浴衣
旅行先の温泉	浴衣
温泉旅行	浴衣

40～59歳

お正月、結婚式	訪問着、留袖、色無地
梅祭り	小紋
美術館、博物館への鑑賞事・伝統芸能の鑑賞・ 街歩き・寺社仏閣への参拝	アンサンブルの和服
自警団の活動時	自治会名の入った法衣
町内の秋祭り	神社のハッピー
観劇・食事会・結婚式	紬・紬・留袖
親族・友人の結婚式	訪問着
花火大会	ゆかた
結婚式・お祭り・旅行	訪問着、留袖・ゆかた・温泉のゆかた
パーティー・イベント・会議・夏祭り	羽織・着物・浴衣
子供の結婚式・親族のお葬式	
お食事会	
子供の入学式・着付のお稽古	色無地・訪問着、小紋
冬の寒い日	防寒にすぐれた絹物
居合道・まつり	紋付ハカマ・町紋入りハッピー
お茶会・花展・法事・コンサート	
子どもの入園式	小紋かな？

宿に宿泊した時・夏の納涼	浴衣や丹前・甚平
結婚式、旅館、夏祭り	留袖、浴衣
クラシックコンサート・七五三や入園式・ライブイベント・お祭りや庭園見物・ショッピング等	色無地や光沢感のある小紋等上品めなもの色無地・黒や赤等モダンな着物に鍵盤柄の帯や音符柄の半衿を合わせたり、レースのショールやコサージュ等ようふうのようなものをあわせています。・小紋、つむぎ、ウール着物、浴衣
コンサート、観劇	小紋
結婚式・普段・祇園祭	留袖・紬・浴衣
地域の神事・仏事・旅行での宿泊時・浴衣・丹前	ハッピーや着物姿での出席になります。
〃親族の結婚式・親の葬式・夏祭り、花火	留袖・喪服・ゆかた
大津祭	袴
〃結婚式(親族の) お祭り・花火大会・盆踊り 訪問(ごあいさつなど) 食事会(ただし、和食の料亭など) お茶会 へ、防寒着	とめそでなど(訪問着?) ゆかた 小紋・訪問着 小紋・訪問着 はんてん(綿入)
親族の葬式	喪服
旅行先での宿泊	浴衣や丹前
自宅	はんてん
日常	半纏

60～79歳

お正月・子供と外へ行く・寒い時・花火 顔見世・同窓会・ひな祭	友禪・訪問着・紬・羽織・道行コート・ウール・毛糸で編んだ羽織・おでんち・はんてん・浴衣・もんぺ(紺)・ちりめん・羽織り〃
茶道の稽古・茶道の初釜その他	小紋など・色無地、訪問着
旅行	宿に備え付けの浴衣や丹前
お茶会・お正月	訪問着・紬、小紋
茶会、稽古時	小紋、色無地等
結婚式・葬式	留袖、訪問着・喪服
茶会	付け下げ、小紋
親族の結婚式・葬式	留袖・喪服
結婚式	
きもの講師(普段)・外出・葬儀など・婚式	小紋等、紬、ちりめん、絹紗・色無地、付け下げ、小紋、紬・黒紋付、色紋付・留袖、色留袖、訪問着、色紋付
旅の寝具として持参・結婚式・納涼、湯上りに	作務衣・江戸褌・ゆかた、作務衣

行事、趣味	訪問着、無地
結婚式	留袖、訪問着
正月	
祝賀会(友人)・入学式、卒業式・友人の結婚式・お正月	色留袖(司会の為)・色無地・付け下げ・ウールでエプロンがけ
親族の結婚式・クラブの行事	留袖・法被
冠婚葬祭・入学・卒業などの儀式・鑑賞稽古	留袖、喪服・紋入り着物・、付け下げ等・小紋、紬

>80歳

家族の式服として着る	
地域の行事、防災訓練・夜景	地域の名前が入った法被
“お寺の詠唱大会等 (生きていたら)米寿のお祝い・作務衣・年が年だけにもう着る機会も少ないと思うが身内の結婚式、お寺の行事(実家が寺なので)等の時着るかもしれない”	紺の無地に白地の帯(皆がお揃いで) 寺、神社へ着物で参ればと思う 日常平生着に便利

年令不明

河内神社、十人鬼行事	紋付, 羽織袴と袴(正装)	
お正月、花火大会	普段着の着物、ゆかた	
夏まつり		
	浴衣	
夏まつり	ゆかた	
夏まつり・旅館できるもの	ゆかた・ゆかた	
まつり・りょかん	ゆかた	
まつり・お正月		
仕事着	小紋、付け下げ等	
習い事(茶道)	着物	
旅館に泊まる時、卒業式。成人式、お祭り	浴衣(宿の)、袴、振袖、浴衣(自分の)	
結婚式	ふりそで	
結婚式、縁日		
七五三	きもの	
結婚式		
自宅でくつろぐ	作務衣	

3-2: あなたが今も和服を着ている理由

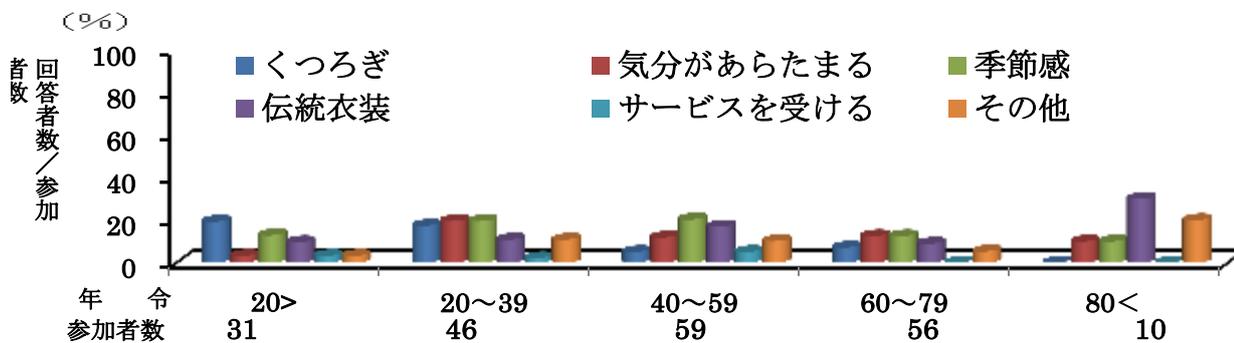
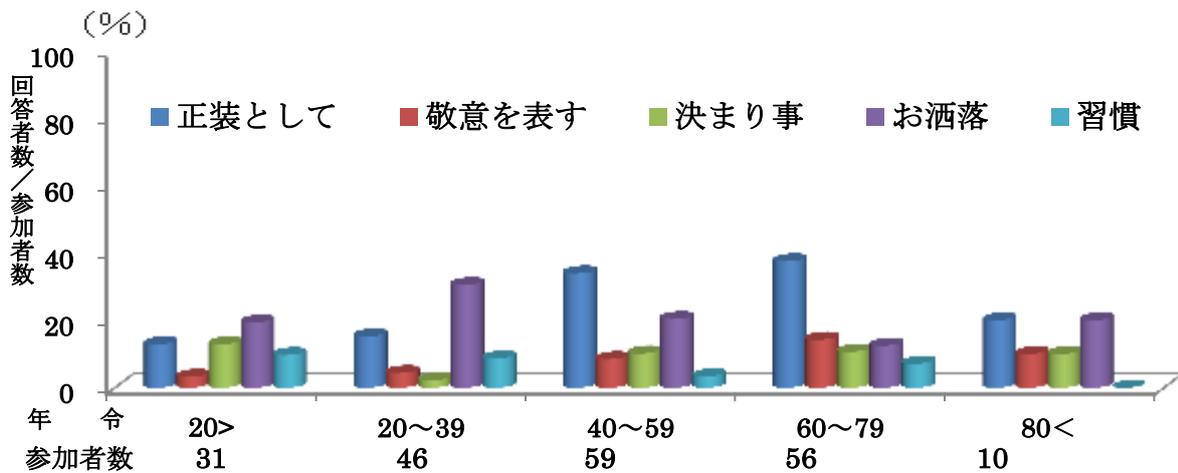
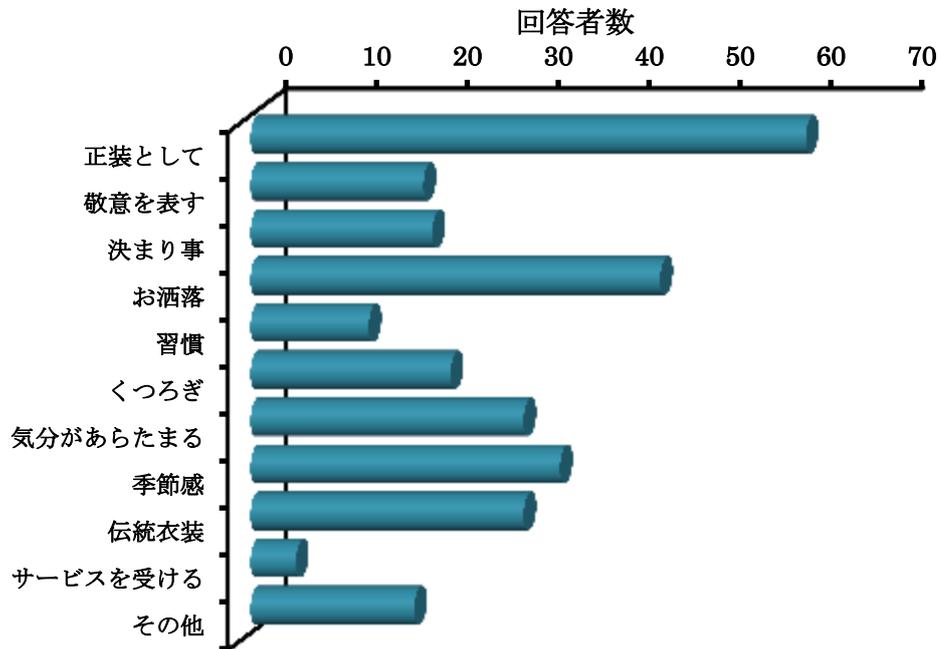


Fig.16

全体では「正装として」が最も多いが、年齢別にみると微妙な違いもある。たとえば 40～79 歳の世代では「正装として」、20～39 歳の世代では「お洒落」がトップに挙がっている。年代が上がるにつれ正装としての和服が重要視され、若年層ほどお洒落や寛ぎを目的に和服を着ていることが予想される。

3-3: あなたが和服を着なくなった時期

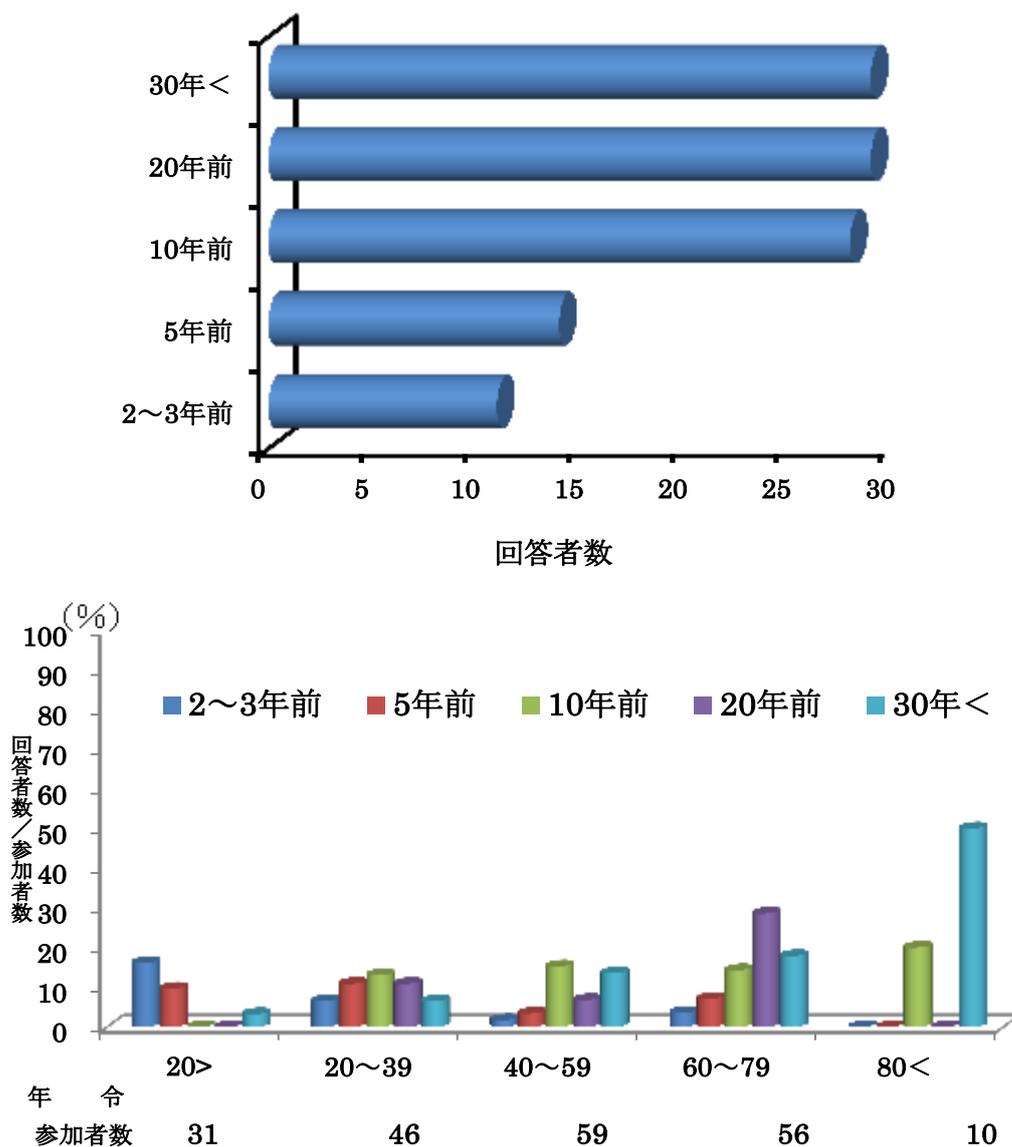


Fig.17

4. 着なくなった理由

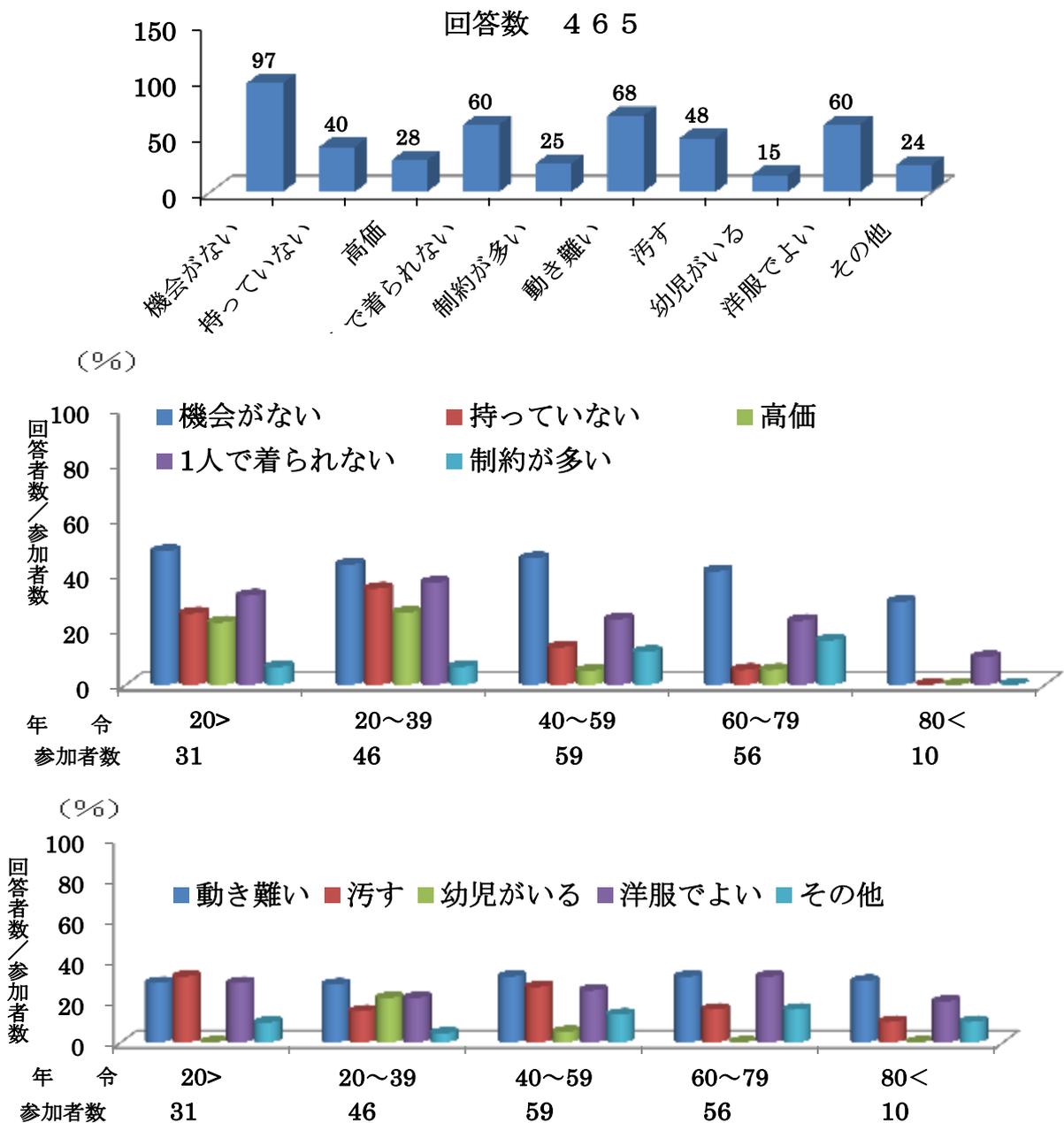


Fig.18

回答項目によって、世代差の出ているものと出していないものがある。たとえば「機会がない」という回答は年齢に関わらずトップの割合である。「動きにくい」なども世代を通じて和服から遠ざかる理由になっている。一方、「持っていない」と答えた人の割合は、若い世代ほど多く、上位世代になるほど和服を着ない理由が複雑化していることが想像される。たとえば「制約が多い」という理由は年齢が上がるにつれて割合が高い。同じ和服でも、世代によって何を「制約」と捉えるかが違っているのかもしれない。

5. お子さんやお孫さんは和服着ることがありますか？

<20 歳

な—い
いない
じぶんだから
いません
いません
ありません
私が子どもです。
あります
ない
私はこども 8才
なし

20～39歳

儀式・行事では着せたいと考えている
イベントの時には着物を着せている
普段は甚平・浴衣を夏に、半纏を冬に着る程度
七五三
子どもなし
子どもはいません。
独身なので…… いつかできたら着せたいです
七五三の写真やなにかのイベントで和服を着る体験のときぐらい。
ある
七五三など行事で
ない
町内のおみこしではっぴを着ます
ありません
七五三等の行事
七五三の時など
夏は甚平は普段から着ます
ある
七五三やお正月
七五三等で
行事はかならず、きものを着せます。お宮参り、七五三、正月等



夏に甚平
未婚です
七五三
6歳の男の子だが、七五三1回しか着せていない。じんぺいなら夏に着せている。
七五三、祭り行事
七五三の参拝の際にきせることがあった。もし孫ができれば、ぜひ着させたい。
子供はいません
めいっこは、着せてもらっています(ゆかた)
未婚です
七五三

40～59歳

七五三
七五三、お宮参り、成人式など、機会があれば着用しています。
なし
ない
結婚式とお葬式の時ぐらいしか思いつきません。
成人式、卒業式くらい
成人式、卒業式など
ない
ある
七五三や成人式
七五三、成人式
七五三。これから成人式とかあると思います。
七五三やひな祭りの時
あります。孫娘達は好んで着ます。
子供 空手着 祭のハッピ
作務衣、浴衣くらい
七五三の時に着せました。予定では成人式や大学卒業式の時に着せたいと思います。
時間があれば、きせたい
旅行に行ったときに着る浴衣や、花火大会や夏祭りで浴衣を着ている。
ない
あります
七五三(男児なので五歳)に着せました。毎年、夏の幼稚園行事や私が浴衣や夏着物を着て出かける時に息子にも浴衣を着せます。
息子は結婚式とお宮参りしか着ていません。孫は七五三に着る予定。
子おりません

ゆかたを着せます。七五三の時は着せました。
ある。七五三の際、男女とも着せた。
ある
祭りのときには着ています
成人式や卒業式、結婚式などには和服を着ている。花火大会、盆おどり、おまつりには必ず浴衣を着ている
めいがいるが、成人式で着たのみ。自身の結婚式でも着ていない(ドレスのみ)
娘は七五三や十三参りで和服を着たことがあります。息子たちは七五三でも洋服を着ました。
七五三では着せました。息子は祭りの時に着ています。次は成人式です。
ない
中学生の息子は最近着ていない(除、柔道着) 姪たちは成人式で写真撮影のために着ている
ある。七五三、レンタル
ない
いないので、ない
ない

60～79歳

あります。産着、お宮参り、七五三、浴衣、おでんち、成人式、結婚式
無い
七五三・夏祭の時のユカタ位 宮参りと七五三 いずれも写真館の借り物です。
宮参り、七五三、成人式とか儀式には着ます。
孫(女子)は七五三や正月に着せていた
娘には浴衣だけを買いました。それは今でも時折着ているようです。 息子は中学校の授業で柔道着を着た以外、和服を着たことはないと思います。
せがまれて逃げてやったのに、その式日や節目以外に着ているのを見たことも聞いたこともない。
ありません
まったくナシ
孫は昨年成人式で着ました。 娘が、この孫の結婚式で私の留袖を着てくれることを願っています。
孫は昨年成人式で着ました。 娘が、この孫の結婚式で私の留袖を着てくれることを願っています。
孫の七五三、宮参り
子供(娘)は入学式(孫の)などで着用している。 まごは七五三で着用したことがある。
ありません
あまりない

成人式
成人式のみ
娘が友人の結婚式に一度だけ着ました。
ほとんど無い、ゆかたを着るぐらい
あります
残念ながら娘は海外生活でゆかた位を楽しんでいる。 お嫁さん(海外生活した)は最近になって、とつぜん着物がほしいと言出し素敵なきものを送りました。 たまに着付けをしてもらって楽しんでいる様子。
ない
七五三で孫に着せる程度
ないです。
ありません
時々着ます。
お宮参り、七五三、成人式
成人式や卒業式くらい。花火の時の浴衣くらいです。
お宮参り、七五三
ない
七五三、成人式
七五三、成人式、結婚式
ほとんどない。たたみ方や手入れの仕方を教えていないから。頭や着付にお金がかかる。
娘は大学の卒業式以来着物を着ていないと思います。 孫娘は七五三の時着ました。
女の子にはあると思います。自分や親族、友人等の結婚式
成人式や七五三
七五三の時
子供は小さい時着ていたが大人になって着物持っていません
子供がいません
ありません
あります(儀式の時)

>80歳

七五三の時
成人式、七五三参り位です。ゆかたは盆踊りに喜んできています
七五三、宮参り
子供の着物はふだん着にワタ入れが多かった
娘は時々着ていましたが、現在はあまり着ていないようです。孫は男の子なので着ません。

年齢不明

長男は、入句と神事が有るので、必ず祭りは正装
花火大会のゆかた程度
七五三 十三参 夏祭りや祇園祭り時に浴衣を着させてあげる。
はい
ある
ないです。残念ながら
あまりない
七五三・大学の卒業式や成人式などには着ました。 浴衣は、自分で着られることから夏着ているようです。
ないです
ない

6. 和服の思い出や服装の変遷、街で見かける今どきの和服など、自由にお書きください。

<20 歳

七五三で着物が着れてうれしかった。
ないよ
ない
レンタルでいろいろなきものがきれるのでそれでよい。
でんとうだなと考じる(ママ)
レンタルでいろいろな着物が着れるのでそれでよい。お手入れしなくてよい。
* イラストで記載: ロープのような形で、筒袖で襟が大きくやわらかに開く。裾に大きな花が一つある。「花がらマーク。むらさき色」の注釈あり。(前田 記)
きものなど
ママのいもうとがせいじんしきのときにママのいもうとといっしょのわふくをきれたこと。
和服の思い出は着物で着る時にきつかったり、おもいっきり着物をしめられた事。
なし

20~39歳

和服もカッコいいが、外出時には着ない
和装ドレスというものがあり、驚いた。
足袋や足袋のような形をした靴もいろいろなデザインである
レース等がついていて、見ていて悲しくなります。
正しい着付をしてほしいです。
最近丈の短い浴衣や、肩を出して着る着物等自分なりのアレンジをして着ている方も増えてきているようですが、個人的には伝統的な着方が風情があって良いのではないかと思います。 京都

<p>では、和服を着て来店するサービスが受けられるお店があるようで行ってみたいと思うのですが、自分で着るのが難しいのでなかなか実行できずにいます。</p>
<p>夏祭り時には、浴衣を着る人(女性、男性)を、よく見かける。 ユニクロ等で浴衣が安価で手に入り、着やすい(洋服のように)ものになった。 地元では、田辺祭りがあり、袴も見る。また、「着物を着る会」という団体もある。</p>
<p>自分らが生まれた時代に和服を着る習慣がなかったので、ファッション的に好きな人達が着る世代のように思える。和服も時代に沿って進化すれば着る方も増えそうだ。</p>
<p>昔からの正装としての和服が好きです。何十年たっても写真を見ると違和感のないものが好きです。おまつりのときはしゃぎすぎてクツづれ(?)したのでぞうり型のサンダルをつかってました。将来留袖(黒くて紋のあるやつ)を着てみたい。かっこいいと思います。</p>
<p>もっと手軽に着れるといいですが、京都の市内でしか着ている方を見かけないです。日本人には和服が良くにあうと思ってます。</p>
<p>和服を見ると楽しくなる。これからも大切にしていきたいし、着ていきたい。</p>
<p>教員は着物を着て良いのかという論議がありました。国から給料を頂き、国民に尽す教員が着物を着て何が悪いのでしょうか。現在は理解ある校長に支えられ、週に1日は着物を着て授業をしています。職員の中には、「着物はいざという時、行動のさまたげになる」「汚すと大変」「着てくる時間が長く大変なのは」「高価」というイメージがあるようです。洋服を着用しはじめてたった80年程度で、日本の伝統衣装はここまで避けられる衣服となってしまいました。中学生という若い世代には着物の心地よさやオシャレ感を知ってほしいと思います。</p>
<p>祖母が着つけを教えていた。</p>
<p>浴衣は夏になると着たくなりますね。女性が華やかになりいいです。個人的に男性の浴衣が好きなのもっと男性にも着てほしいです!!</p>
<p>昨年子どもの甚平を手ぬつくりました。とってよろこんでくれたので、嬉しかったです。</p>
<p>持っていないし、自分で着れない。簡単にきれいといいですよ。街で着ている人がいると、うらやましく思います。</p>
<p>とって、いろとりどりで、きれいでした。私は20才のときに、成人式できものをきませんでした。うらやましかったです。</p>
<p>若い頃は夏に京都に行く時ゆかた着て買い物などした。</p>
<p>私の七五三の時の着物は、反物を買って祖母がぬってくれました。</p>
<p>街中できれいに和服を着こなしている事を見るのは好きです。</p>
<p>京都へ出かける際は和服を着た方(40~60 歳代)をよく見かけます。それ以外は結婚式、お祭りの時ですが、洋服の方が多いです。</p>
<p>和服(着物)がもっと日常使いできれば(元々は日常のものだったはずだけど!)素敵だなあと思うものの、いざ後々の手入れや手間を思うと腰が重くなります…。</p>

40~59歳

<p>京都では和服を着ていると受けられる特典が多いためか、よく見かけますね</p>
<p>自分流に着こなしている方を見かけますが、正装という観念からはなかなか受け入れがたいものが</p>

あります。
女性の和服姿はよく目にするが、和服を着ることが大変な女性が着ているのを見ると男性の和服は、着るのが簡単なのに、和服を着ないことを不思議に思う。
サラリーマンですので、昼間の大半を過ごす職場は、背広とネクタイの着用が定められています。そして、現在これが男性の平常着となっています。 夜間は先の大震災の教訓からTシャツにジャージが寝る時の着衣です。諸事業も簡素化され、和服の出番は少ないです。
小学生まではお正月等にも着ていましたが、年齢が上がるにつれて着る機会が減りました。就職してから、自分で着れるようになりたいと思い、着付け教室へ通って名古屋帯までは着られるようになりました。
一人で男性がトンビ(コート)を着て電車に乗っているのを見かけた、目立った。 京都で女性は三～四人くらいで大正風の柄と小物をコーディネートして楽しそうだった。 七五三で着付けして飾った時はうれしかったけどたびや帯がきゅうくつで、帰りの車で脱ぎました。プロに着付けしてもらおうと着くずれしないのにきゅうくつじゃない。
京都の東寺で和服をアレンジしてレースをつけて着ておられました。気軽でとてもいいかんじでした
若い人のかわった着物の着方がかわいい。大正ロマンの着方がしてみたい。
今どきの若者の和服(清けつ感のないヘアスタイルやヒラヒラのついたかざりなど)に異和感があるときがあります。だけどそれでも着る人がいてくれるのはうれしいです。ぞゾウリで歩くのは大変。車以外で出かける時はかなりキビシイ!!
もう少し気軽に着ることができればいいのにと思います。着付け料もかなり高いので…。
京都にすんでいるからか、やっぱり着物はいいなと思う。
成人式。外人が観光で着ている(レンタル)。今年は京都でよくみかけた。
できるだけ着るようにしています。着物が好きです。絹だけでなく、洗える着物等利用しています。
成人式でまわりの友達みんなと振袖を着て写真をとったことをよく覚えています。普段着物を着ることが少ないので特別な気分になり、お祝いの気分が高まりました。自分で着れるようになりたくて着付けのできる友達に家に来てもらい、着付け教室をしてもらっています。
和服は日本人の心のみなもと。1人1着、年に1度は着てほしい。
洋風の和服や、大正レトロなリユース的な和服を見ます。とても大切な文化ですから亡くなってほしくないですが、自分が着れるかという矛盾を感じます。
子供はきものを着せると喜びます。
上品に見えていいかんじ
2年前娘の結婚式w京都の寺でしました。 新郎・新婦はもとより、両家両親とも着物を着ました。 私の方は息子も紋付・ハカマでした。 おごそかな雰囲気で大変よい結婚式でした。
着物の柄に自害を感じる。昔はソソとした人が着ていたけど、最近着ている人はケーハクそう。
行事以外でも、時々和服の人をみかけるが印象はよい。
☆思い出→近所のおばさんに着付けてもらった時に、帯のしめつけや、着くずれなど途中でしてとて

もいやな思いをした。☆和服は小道具が多く必要なのと、着るのに時間がかかりあとしまつ(ぬいだあとのしまい方)に時間がかかるのでついようふくにしてしまう ☆街でミニにヒールといったスタイルを着るものでしている若い子をみかけた。☆着物をきると動作の美しさが気になってしまう。でもやはり美しく歩いたり、動作が美しいのはすてきだと感じます。

明治生まれの祖母は昭和50年代まで日常的に和服を着ていました。

狩衣を着るのは、嫌ではなかったが、隙間があって、何となく落着かなかつたのを覚えています。祇園祭や五山の送り火等で若い人たちが、浴衣を着ているのは風情があってよいと思いますが、だらしく着ている人を見ると興奮めしてしまいます。

成人式を見ていると、流行がある様に思いますが、実のところ、今の商業主義に踊らされているだけ。写真や貸衣装で100万200万…信じられません。このままどうなってしまうのだろうと心配しています。

子供の頃は町で和服を着ている人を普通に見かけた。

特に思い入れはない

正月の初もうででは着ている方が多いと思う。時々見かける今どきの和服は着物なども短くなったり、いろんな形がある様に思う。

子供の頃は母に正月やお茶会の時に着せてもらっていました。よい思い出です。

お茶を習っている時に着付けも少し習って、ゆかたくらいは着られるようになったのですが、いまではあと片づけもおっくうで着る気になれません。母に作ってもらった和服もいくつかありたんに片づけたままで、どんな風になっているか(むしういか?)心配です。こういう思いの方は他にもおられるかな…。いつか着る時がくるのか…と考えますがたぶんそんな時は来ないのではとも思います。

生物系の学会に和服で来る人を数名知っている(1人は某前館長ですが)。

去年、日本で国際学会が開催されたが、その時の1つのイベントの司会をいつも着物で来る女性が頼まれていた。やはり、日本の象徴の1つですね。

60～79歳

大学生の時西洞院の堀川の地下水位をくみあげて絞りの着物を中心に洗はるお店で一夏アルバイトした思い出。先代さんは高島の人でした。

母に作ってもらった成人式の着物は今でも大好きな柄です。丸帯は(博物館で飾るほどのよいものです。年代物と言ひ、鶴の織りといひます。)戦時中にお米と変えてと持って来やはった人と交換した物やと、母が言っていました。

冬に京都へ行きますと、舞妓さんが綿入れの道行コート着て新幹線に乗って、どこかの街へイベントにでも行きはるのか電車を待ってはるのを見ます。私も死ぬまでにお着物の裾を少し見せて着てはる風情に憧れます。着物を洋服仕立てにして着てはる人を見かけます、皆さんステキに着てはります。

お正月には水仙や金銀のお目出度い刺繍のしたる半襟をお襦袢につけます。

冬には台所に立った時足元が冷たいので、別珍でこしらえた色足袋をはきます。

京大病院では和服での診察はお断りと書いてあります。

昔はお葬式は皆が一行に並ぶさかいに、作ってやる嫁入り着物の中でも、とびっきり良い布で作ってくれました。

大島紬は丈夫で温かいですが、私の様な田舎者は町へ着て行きますと、余計田舎者が顕著になって、なんでこんなもん着て着たとデパートの鏡で一人顔が赤くなります。ので、絶対高いものですが街へは着て行きません。銀座あたりでお仕事してはる人は惚れ惚れしますね。様になってはります。大島紬はせいぜい姉妹で集まる時に着ます。

父は綿入れの着流しでした。丹前きてました。いつも母は父の着物を仕立て直してました。

おすもうさんのお着物はよろしいね。目の正月程良いのを着やはります。

私は着物が好きですので、書き足りません。

母は姉の嫁入りに自分で綿作って、紡いで布団こしらえてもたせました。

平成元年、大阪にいる義姉の葬式での事、自分で着付けをしていましたが時間がなくて急がされ帯の段階で手が長く残ってしまったのです。大あわてでやり直す内にパニックになり・・・

一応、洋服を持参していたのでよかったです。

仲人をした時、控室へ新郎様が入ってこられ「袴の紐がほどけてしまいました・・・」と、着付教室で最終回にきせてあげるのはありましたが男物はなく、まして袴は全くわかりません『〇〇家様』担当係の方を探しました。

昨年亡くなった私の母は昭和40年代位まで野良着は和服でした、又たんすには各種の着物や帯等いっぱい詰まっていますがすてるにしのびずまだそのままになっています。

妻も和ダンスいっぱいの衣装があり、一度も手を通していない着物もあり「若い時苦労して作ったのに勿体ないな」と話しています

私も羽織、袴、白丁など「ダンスの肥やし」のまま眠っています。

今では和服を見るといえばお寺の坊さんか神社の神主さん位で先日の成人式に近所の娘さん2人が着飾った姿を見せてくれた位です。

成人式での振り袖姿は見ていても気持ちが良いですわ

20年前迄は仕事で振袖を仕立てていましたが老眼がひどくなってきたので止めました

日本の伝統の着物を着る人達が増えると良いのですが。

40年前自分の結婚式で紋付、袴を着せてもらった時に痩せていたため、着崩れするので、なるべく動かないでくださいと言われたことがあります。今では減量に気をつかう毎日ですが。

色たびを時々見かける様になった

母の世代は当り前の様に着物を着ていたが、私が着る時は少なく、とかく高価で、小物が多く、動きにくいという思いを持っています。

結婚する時に母が持たしてくれたいくつかの着物も、いつからか、柄や色が合わなくなり、もったいないなど、今になって感じます。

最近の若い人たちが、大正時代位の柄を着ているのを見ると古くさくなく、うまく現代に合ったなあと感じますわ。

今どきの和服

若い人が、祭りやイベント時、着ている着物の着付方に驚いています。ひざまであげていたり(大人)エリもとにヒラヒラの布をつけたりブーた気がして好きではありません。

日本の伝統芸能にふれる時和服姿を見かけます。
子供の頃は寝まきも冬はネルのものなどを着用していました。お祭り、お正月にも着てはれがましく、うれしいものでした。今は女の子も御輿をかついでいますが私の年代の頃は男の子のみでした。もちろん子供の数が今は減少したというのがありますが差別があったかもしれません。着物は着ると後、呉服店であらってもらい、料金もレンタルで着物を借りた方が安価だったりして、ためらいますそれに親が嫁入りにつくってくれたものがサイズが合わなくなりました。友人にもきくと、仕付けのついたままのものが多くあります。
驚く程自由な着方、組合せ:従来の季節感など無視しての着用でも、民族衣装として続いてほしいので… 時には少しでも和服について学べる機会は持ち続けたいと思う。 伝統は変貌しながら守られて行くでしょうね。 孫の七五三参り(明治神宮) 外国人のお子さま方多数和服でお参りされていて、驚きました。
やはり着ていると日本人という気がします。もっとカンタンに着れたら、どんどん着たいです(ヒモや下に身につけるものが多すぎて)。
最近、帯やつけえりが昔とちがい、カラフルでステキです。そういうのを見ると着てみたくなります。
若い方に着てもらいたい。
自分は着ないが、着ている人を見るといいなあと思う。いつまでも残したい。
着る機会は少なくなりましたが、ただ、和服は私達の年代は(60代) 沢山(?) 持ってます。今も何枚か風通しをしています。大事にして、孫達に着てもらえたらと思っています。
京都に出かけた時、レンタル着物の若者が多かった。着かたが変わってチャラチャラついていてなんとなくがうと思う。昔からの伝統を守ることも大切なのではないのでしょうか。
和服がもっと広がるようにと思います。和服は亡き母の思い出につながっています。
ここ数年、京都に出ると若い人の着物姿をよく見かけます。 私自身は最近太ってきて、手持ちの洋服のサイズが合わなくなってきたので、和ダンスに眠っている着物を普段着に着たいな…と思っています。 簡単に素早く着るために、帯を作り付け帯にリフォームしたいと思っています。 自分でリフォームのできたらいいな…と思います。
高校の服装が自由化されたとき(45年位前)に、学校に最初に和服で来た人になるという意図で学校に和服で来た人がいた。しかし戦前から続く学校の歴史と今の和服の着られ方からするとその人は最初ではなく、むしろ最後の人であったかも知れません。やはり日本人には和服はよく似合います。長濱の大通寺のような取組がもっとあれば良いのと思います。あんまりこのアンケートとは関係ないけど初代館長の川那部さんの和服姿は粋でしたね。
新たまった場所等服装に迷った時着物にします。でもまわりの人より出過ぎと思われているかも? もっと皆が着物皆さん持っておられるの利用されたら暖かいし私は好きです 今は亡き父親が正月大島の着物姿がなつかしいです
生活が洋風(行動的)になりきる事がなくなったが、日本人として機会があれば和服を着たいと思っている!
母が和服縫っていたので和服は好きですが今は外に出ることが多いので着る機会が有りませんがもんぺは畑に行く時はいつも着ています

自分で着付け出来る人が少なくなって着付けのプロに頼んでいたらまとお金がかかるみたいですが母が作ってくれたきもの、また母の着物を見て、退職後になって手入れをしているうちに着たいと思うようになりました。

若い時は着物より動きのよい服を選んでいました。機能性、実用性にばかり目がいきましたが、ある程度の年齢になると、日本の伝統美である着物への興味又その製造過程へも目が向くようになりました。日本文化の象徴と感じています。

>80歳

なつかしくて、感じが良い

まず、一人で着付けが出来ない。着付代が高すぎる。

親戚の人で呉服商を営んでいる人が年中和服を着用し、何か気高さを感じます。又仏像の彫刻している人がいつも和服で感心しています。家に和服や上下などきちんと親ゆすりのもの又新調したものなどありますが平素全く使用していません。ただ神宮の役職(宣、 当家、区長など)当たった時は字の規定で和服の清掃をします。袴も着けます。

最近羽織を着なくなった

柄物が少ない、濃い色の着物が少ない、うす色の無地が多い

コートは身丈の短い長いがある、衿も道行、ヘチマ衿があった、よそ行きには今も来ている人が多い
アンサンブルがない 型が古い 時代遅れの感がする

男の人は、夏はふんどし、上はカタビラと言ってカミシモの様な袖のない麻、木綿の布で作ったの
石灰をまく時(土用)は柔道着のような前で打ち合わせ袖はツツ袖のものを着てまいて、いました直接ハダにかからないため

冬は木綿の着物、外出は絹物の大島の様な上等のやわら着着物に羽織着で上にトンビ(マント)を着ていました

本人が旅立つ(納骨)等今でも一番好んだ色、柄等着せてあげる(上等物)

年令不明

野間孝男氏とは神事行事ではいつも一緒です。

今は、若い人がレンタル着物で京都の街を歩いておられます。日本人よりも、外国の方が多くみられます。雑誌でも、自由な半えりやレースを使い、おしゃれ着として、素敵に載っています。同窓会でも、粋なお着物の女性が増え楽しいです。

古い着物もいまでは汚いだけとお思っていました、ちょっとおしゃれに着られるかもと興味が出てきました。ある程度の年齢にならないと文化・伝統わからないことがあるけど、いざ、娘に伝えるのは難しいと思っています。

洗える着物が多くなり、中国人がよく着ている。頭に大きな花を付けるのは変で似合わない。おかしいな…

最近新しいファッションが増えてきて、はかま+ブーツだけでなく振袖+ブーツという格好をみかけます。和服を着ると落ち着くのでたくさんの人に着てほしいです。

小さい時に母の手縫いの金魚のゆかたが大好きで、子供ができれば着せたいと思っていましたが、

男でした。
子供の結婚式で留袖を着ました。久しぶりに着て。又普段にも着てみたいと思いました。
自分の着る物なのに自分で着られないとか、メンテナンス[洗濯できないとか]が難しいのがとても残念ですね。さりげなく美しい着物姿にあこがれます。
子供の頃の寝間着は和服、小学校高学年からはパジャマになった。柔道着は厚く重く、洗濯したら縮んで大変だった。

7. おわりに

今回のフィールドレポーター調査は「きもの」を着るチャンスが比較的多いと思われる、正月の時期に合わせ、皆様の和服着用経験を中心に「きもの」への思い出などを調査対象とさせて頂きました。

今回の調査では、フィールドレポーターの皆さんご自身の他、お知り合いの方々にも参加頂くとともに、博物館に来られた一般の方々にも参加して頂くべく、アトリウム内に調査用紙を置いて頂いたところ、滋賀県内在住の方々以外に15都道府県在住の皆さんも含めて、232名の皆さんから、さまざまな回答を頂きました。

参加頂きました皆さんの、和服に対する思い出、着用経験は様々であり、自由記載欄には沢山の貴重なご意見を頂きましたので、重複するものもありましたが、全てを本報告書に記載させて頂きました。

なお、本調査に参加して頂きました方々の性別集計では、男性 58 名に対して女性の皆さんは 159 名であり、きものに対する関心の度合いの違い覗えました。

以上

企画担当 : FRS 前田 雅子
集計担当 : FRS 森 擴之

2014 年 12 月 20 日

フィールドレポーター 2014 年度第 2 回

「みんなも着ている!? 和服大調査」ご案内

～～ 今度のお正月に“和服”を着る予定がありますか？ ～～

今回のフィールドレポーター調査は、私たちの服装を取り上げます。日本の伝統衣装である“和服”をテーマとして、洋服で過ごすことが多い中での和服着用について、皆さんと一緒に考えてみます。

皆さんはこれまでに和服を着られたことがありますか？

職業上和服の着用が必要な方を除いて、和服を一度も着たことがない方も居られるでしょうがほとんどの方は何らかの形で着た経験をお持ちではないでしょうか。また、スーパーで綿入半纏（わたいれはんてん）が売られているのを見ると、意識しているといないと関わらず意外に和服が着られているかと思ったりもします。私たちは、どのような場面で和服を着るのでしょうか。

この調査を通して、和服についての新たな発見、さらには和服着用の意義が垣間見られれば面白いと思います。

一 和服とは一

“和服”というと、小袖や袴(はかま)などを思い浮かべますが、和服は日本で発達した衣装で、お祭りなどで着る法被(はっぴ)、和風の仕事などで着るユニホーム、作業着のモンペ、家着としての甚平などの他、被り物や履物も含まれます。神主さんが着ている狩衣(かりぎぬ)は平安初期から、華族女学校に始まる女袴(おんなばかま)は明治 20 年からと、それぞれの着用開始時期は様々であり、長い歴史の中で形態や利用が変遷してきました。

モモヒキ、パッチと呼ばれる股引類は、日本で発達した労働着の一種で、これらも和服に属します。また、はだか祭りの“ふんどし姿”も和装の一つの形です。けれども、股引類は現在肌着(下着)として利用されおり、今回は「肌着を除いた和服」を調査対象にしますことをご了承ください。

ご自身の服装については書きにくいかもしれませんが、昔を振り返りながら、楽しんで気軽にご記入いただければと思います。調査票は 3 枚同封します。ご家族の皆様(お子様を含めて)、また、ご友人などに調査票をお渡しいただき、アンケートへのご協力をお願いいたします。特に 50 歳以下の若い世代の方、80 歳以上の昔をよく御存じの方、大歓迎です。そして、和服が少なくなる時代を見てきた 50～70 歳代の方たちも、どしどし報告をお寄せください。

一☆調査期間は2014年12月20日～2015年1月31日といたします。

☆調査票の返送は、郵送の場合は返信用封筒で、[電子メールの場合は reporter@lbn.go.jp](mailto:freporter@lbn.go.jp) にお送りください。

なお、調査票のワード版は <http://www.lbn.go.jp/fieldrep/index.html> からダウンロードできます。

琵琶湖博物館フィールドレポーター2014 年度第 2 回調査

「 みんなも着ている!? 和服大調査 」

お名前 _____ (男・女) _____ 県 _____ 市・町 _____
 (19 歳以下 20~39 歳 40~59 歳 60~79 歳 80 歳以上)

1. あなたは、この 1 年くらいの中で、和服姿の人を見かけたことがありますか？ (一つに○)

よく見る 時々見かける ほとんど見ない 全く見ない

2. あなたの和服着用の経験についてお聞きします

(1) 下の行事や暮らしの場面で、和服を着たことがあるものすべてに○をしてください。

* 結婚や儀式については、ご自身の時だけでなく、列席・付添いで参加した時も含みます。

- 結 婚 … お見合い 結納 結婚式
 儀 式 … お宮参り 七五三 十三参り 入学式 卒業式 成人式 還暦等の長寿祝い
 不 祝 儀 … 葬式 法事
 行 事 … お正月 初詣 ひな祭り 端午の節句 大晦日
 お祭り等 … 祭りの見物や参拝 花火大会 盆踊り 縁日 ほたる狩り 紅葉狩り
 伝 統 … 地域の祭礼への参加 武道(柔道着など) お稽古事やその行事 伝統芸能
 外 出 … 式典やイベント あらたまつた訪問 参観日 観劇など パーティー
 自治会等 … 年頭などの特別な会合 防災訓練 夜回り
 日 常 … 普段着 寝る時 仕事(勤務先の制服を含む) 作業 夏の納涼 冬の防寒
 そ の 他 … 宿の浴衣や丹前 他に(_____)

(2) 上で○をつけたものについて、差支えなければ簡単な説明やコメントをお願いします。

3. あなたは今でも年1回以上和服を着ますか？または、将来に和服を着る機会がありますか？

()はい ⇒(1)(2)へ ()いいえ ⇒(3)へ

(1)それはどのような時に着る、どのような和服ですか？

	どのような時(行事名や活動) (例…町内の秋祭り、親族の結婚式)	どのような和服(種類など) (例…神社の名前が入ったハッピ、板前の調理服)
イ		
ロ		
ハ		
ニ		

(2)あなたが今も和服を着ている理由として当てはまるものに○をしてください。(複数回答可)

- 正装としての安心感があるから 敬意を表するため 決まり事になっているから
 華やか(お洒落)だから 着るのが習慣になっているから くつろげるから
 気分が新たまるから 和服のもつ季節感が好きだから 伝統衣装だから
 イベントで、割引などのサービスが受けられるから
 その他(_____)

《設問4へ》

(3)あなたが和服を着なくなったのはいつ頃からですか？ 1つを選んでください。

- 2,3年前 5年前 10年前 20年前 30年以上前

4. 今は和服を着ない方や、着るけれども回数が以前よりも減った方にお聞きします。その理由として当てはまるものに○(複数回答可)、また、特に大きな要因と思うものを◎(一つ)で記してください。

- 着る機会がないから 和服を持っていないから 高価で購入しにくいから
 一人で着られないから 着方に制約が多いから 動きにくく、活動的でないから
 汚すと困るから 幼い子どもがいるから 洋服で十分だから
 その他(_____)

5. あなたのお子さんやお孫さんは、和服を着ることがありますか？

6. 和服の思い出や服装の変遷、街で見かける今どきの和服など、自由にお書きください。

(参考) 和服のいろいろ

- ・紋付 ・袴(はかま) ・羽織 ・袴(かみしも) ・肩衣(かたぎぬ)
- ・狩衣(かりぎぬ) ・喪服 ・留袖 ・色無地 ・振袖 ・訪問着
- ・付け下げ ・小紋 ・アンサンブル ・紬(つむぎ) ・絹(ろ)
- ・ウール ・緋(かすり) ・浴衣(ゆかた) ・甚平(じんべい)
- ・襦袍(どてら) ・丹前(たんぜん) ・法被(はっぴ) ・半纏(はんてん)
- ・もんぺ
- ・作務衣(さむえ) ・寝間着
- ・道着(柔道、剣道、弓道など)
- ・綿入

* 身近なものを中心に挙げて
います

完